

製本のススメ

Vol. 152

「梅は咲いたか 桜はまだかいな」と唄いたくなるような 暖かい日ができましたね。まさに三寒四温（三日寒いと四日目には暖かい日がくる）です。時折 みぞれらしき 小雪が舞いますが春はそこまで来ていますね

今回は**筋**の話し

最近はスジ入れ加工が増えてきました。基本的に「筋入れ加工」は ビク抜き作業です。しかし 一連の製本加工の中にも筋入れ加工がありますので、製本でもできます。さて両者どこが違うのでしょうか？

まずビク抜きでは「抜き型」が必要です この型に筋刃を入れて 1枚ずつ型抜きをしていきますので、寸分の狂いもなく また筋の太さも ある程度は自在です。さらにデザイン性にも優れ 筋刃の長さも角度も自在ですので 筋に沿って折ると球体になる様な加工も可能です。しかし 抜き型代が必要です。即日に筋入れと言われても難しく 少数の場合にはコスト面で割高感があります。

製本での筋は あくまでも折り加工の補助が目的です。直線で筋刃の長さは一定です。筋の太さもあまり変えられず 太い筋や細い筋の指定がほぼできません。

さて筋入れの際 筋山はどちらにしますか？と聞かれたことはないでしょうか 筋をよく見るとカマボコ状に湾曲した形状になっています。用紙の表側を凸にするのか裏側を凸にするのかで、若干用途が変わる場合もあります。

ファイルのように板紙や厚手のカード紙など 紙に厚みがある場合には折り曲げる内側に凸面を向けます。逆に用紙の薄い場合には 折り曲げる外側に凸面を向けます。最近では このような基準に沿うことなく 前回見本通りという指示で紙厚を考慮せずに筋入れをされる場合や コスト優先で筋山を同じにすることもあり 加工側では最良の加工をすることができません。(クレームの要因になってしまう場合があるため)

折り筋一本の事ですが 製品の仕上がりに影響のなる加工でもありますので 企画校正段階から注意深く進めて頂きたいものです。



Teabreak

先日 奈良の東大寺へ行ってきました。ふとみると社殿に菊の紋章があり、少々違和感があったので調べたところ 奈良時代以降「神仏習合（神と仏は同じものである）」という思想が生まれたのだとか。その後 明治政府が神仏分離令をだして神仏混淆の思想は禁止されます。でも庶民の間では 既に習慣になっていて現在は習俗として残っているそうです。

弊社 HP は www.isekiseihon.com

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本